

六連島
(むつれじま)
面積:0.69km²
周囲:3.90km

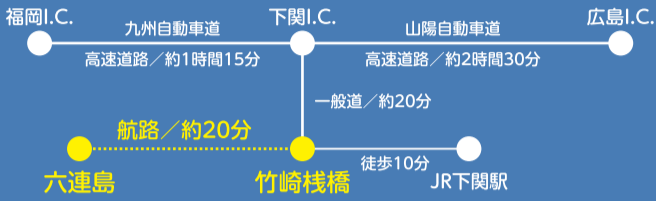
MUTSURE
六
WELCOME TO ISLAND

六連島



日本最古級の洋式灯台のある花の島

アクセスガイド



駐車場

専用の駐車場はありません。
近隣の有料駐車場をご利用ください。

運行時間

- 通常期 ● 1日4往復
・1月5日～3月19日
・3月22日～8月3日
・8月17日～12月26日
- 繁忙期 ● 1日5往復
・1月2日～1月4日
・3月20日～3月21日
・8月4日～8月16日
・12月27日～12月31日

竹崎発	六連島発
6:25	7:00
10:00	12:30
16:40	17:10
18:00	18:30

竹崎発	六連島発
6:25	7:00
10:00	12:30
14:30	15:00
16:40	17:10
18:00	18:30

- 1月1日 ● 1日2往復

竹崎発	六連島発
9:00	9:40
16:00	16:40



運賃料金

区分	片道料金	往復料金	詳細
大人	370円	710円	
小人*	190円	370円	

*小人:12歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者(この日を超えて小学校(これに準ずるものを含む)に就学している者を含む)。
*6歳以下の未就学の者は無料。

お問い合わせ

- 下関市企画課 tel.083-231-1911
- 下関市渡船事務所 tel.083-261-1010
- 山口県漁協六連島支店 tel.083-266-4636

quiet journey

静けさの中にある小さな発見



MUTSURE

「花」の島

関門海峡の西に浮かぶ六連島は、大型船舶が行き交う国際航路に挟まれた溶岩台地の島。島の中央部の肥沃な台地(標高約百メートル)では、温暖な気候であることからキャベツなどの露地野菜の栽培がおこなわれていましたが、最近ではキクやカーネーション、ガーベラなどの花きのハウス栽培が盛んです。収穫された花は、花き運搬船によって北九州などへ出荷されています。また島内には、六連島灯台や雲母玄武岩など名所旧跡が多く残されているほか、アルコール漬け瓶詰めウニの発祥地としても有名です。



島名の由来

日本書紀にも「没利(もつり)島」として登場する歴史のある島です。古くはその島の形から「かに島」と呼ばれた六連島は、周囲に馬島、金崎島、片島、和合良島など大小6つの島が連なっている様子からこの名が名付けられたという説と、西教寺を開いた麻生与三衛門高房など6人が初めて六連島に渡って土地を分けるために縄で島を6等分したためという説があります。また、六連の語源を韓国語の「モッアール(集落)」に求めている説もあります。

特産品(瓶詰めウニ・乾燥ヒジキ)

磯漁業としてウニをはじめ、サザエやアワビ・海藻類の採取が盛んで、花きと並んで島の代表的な特産品に挙げられます。

問い合わせ 山口県漁業協同組合 六連島支店
注文・購入 TEL.083-266-4636 まで

六連島への旅は、船の上から始まります。

行きの船と帰りの船では、違う表情の海の風景をお楽しみください。



島生活 Q&A

島について島民の方々に聞きました

Q 商店がない島では、普段の買い物はどうしているの?

- 週1回は船に乗って本土に買い物に行きます。
- グループで週に1度生協で注文しています。(生協が届けてくれる)

Q 電気・水道・ガスの使用に制限がありますか?

- 制限はありません。
- 灯油は家で自分で運びます。
- ガスはプロパンで市内の業者が各家庭に配達しています。

Q 家庭ゴミはどうしてるの?

- 本土と同じ回数で実施していて各自渡船場まで運びます。
- 粗大ゴミは年1回自治会で運搬しています。

Q 学生さんは学校はどうしてるの?

- 小学生・中学生・高校生が船で通学しています。

Q 野生の動物はいますか?

- 猫が少しいます。
- 小動物はいませんが、カラスや春になるとヒヨドリが農作物を荒らしています。

島の好きなところは何ですか?

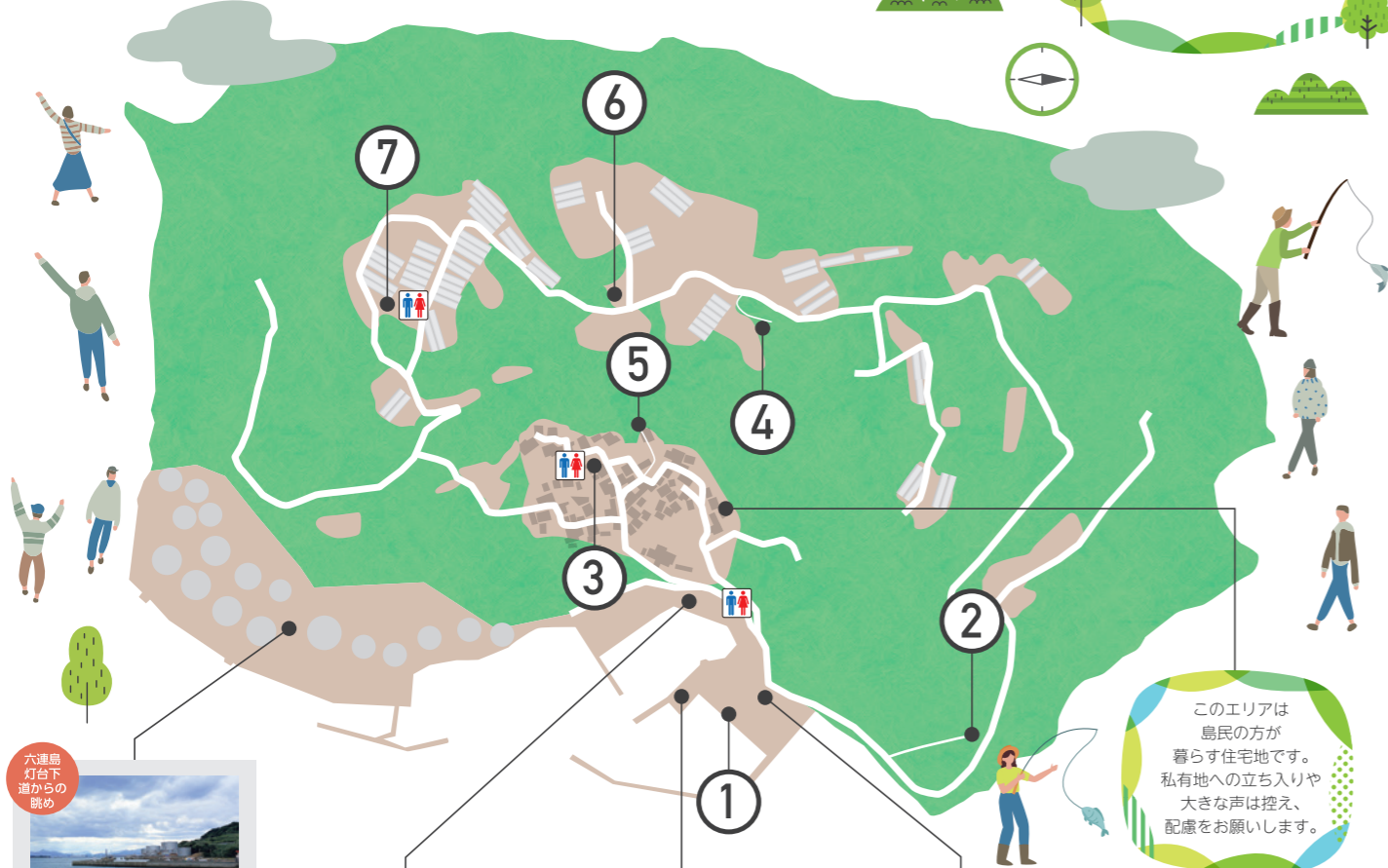
- 山から見る関門海峡は綺麗です
- のどかなところ
- 大きい船が行き来することと遠くに見える海上風力発電
- 静かなところ
- 下関市側から昇る朝日とクルーズ船が通る海
- アサギマダラがやってきます





- 時期や場所によっては道の状態が悪い場合もありますので、歩きやすい靴・服装でお越しください。
- 危険なスポットには立ち入らないようにお願いいたします。
- 島内は売店がありません。持ち込んだ飲食の袋や、釣りで使用したゴミ等は必ず持ち帰ってください。

島1周は
約1.5~2時間



六連島
灯台下
道からの
眺め



漁協六連島支店



渡船待合所



漁村センター

自動販売機
案内板

島内は売店がないので
飲み物はここで
購入しましょう!

このエリアは
島民の方が
暮らす住宅地です。
私有地への立ち入りや
大きな声は控え、
配慮をお願いします。

散策していると、ふと心を奪われる景色に出会えます。静けさの中で、あなただけの景色を探してみませんか。



静けさの中にある小さな発見

1 六連島漁港



花き栽培など農業が島の基幹産業となっていますが、周囲が豊かな水産資源に恵まれていることから、アジ、ヒラメ、カサゴなどの魚類やサザエ、アワビなどの貝類、ウニなどが水揚げされています。また波止場周辺は、釣りの好ポイントとなっていますので、ごみの持ち帰りなどマナーを守ってお楽しみください。

3-1 西教寺



浄土真宗本願寺派のお寺で島民から広く親しまれているほか、境内に「於軽同行之碑(おかるどうぎょうのひ)」や「城戸久七翁顕彰之碑」が建立されていることから、遠くは東北から九州まで全国各地から参拝客が訪れます。正面向かって左手奥のトイレがご利用いただけます。

3-3 ウニの瓶詰め発祥地



下関の名産として知られるウニの瓶詰め加工技術は、六連島が発祥です。江戸時代、藩主献上用に塩漬けが考案され、のちに焼酎漬けへと改良されました。ある日、外国人水先案内人が誤って洋酒をウニにこぼしたことから新たな味が生まれ、この話をもとに城戸久七が研究を重ね、独特のアルコール漬けウニの加工法を確立しました。

2 六連島灯台



日米和親条約による兵庫開港(現在の神戸港)に備え、慶応3年(1867)4月に建設、英国人技師R・H・プラントン率いるお雇い外国人により、明治4年11月に初点灯されました。外観は建設当時の姿をとどめ、日本でも最も早く建造された洋式灯台の一つとして、2020年(令和2年)に国の重要文化財に指定されました。

3-2 於軽同行之碑 (おかるどうぎょうのひ)



江戸時代、熱心な真宗信者であったお軽さんの碑。享和元年(1801)生まれのお軽さんは、17歳で結婚後、不遇な人生に苦しみ、一時は死のうと思ったほどでしたが、西教寺の法話を機に仏に帰依しました。その信仰の篤さから「長門のお軽」と呼ばれ、加賀のお千代、大和の清九郎とともに真宗の三同行の一人として知られています。

4 雲母玄武岩 (うんもげんぶがん)



世界でも3ヶ所しかないといわれる「雲母玄武岩」。火山活動で噴出した高熱の玄武岩が海水で急冷され無数の穴が生じ、その内側に約4mmの黒雲母や角閃石の結晶ができた、珍しい岩石で明治初期に発見されました。日本では六連島だけに存在し、昭和9年1月22日に国の天然記念物に指定されました。

5 六連八幡宮



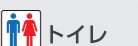
明治4年2月、旧幡生村八幡宮(現生野神社)から勧請され、応神天皇・仲哀天皇・神功皇后を祭神としています。毎年10月4日・5日には秋祭り(例大祭)が行われ、4日は戸別祓いと前夜祭、5日は本殿祭と神幸祭が執り行われます。前夜祭では甘酒と湯を供え、笹の葉を浸した湯で身を清める「湯立の神事」が行われ、無病息災と長寿が祈願されます。また7月9日には、麦を供えることから「麦祭り」とも呼ばれる七社祭が催され、島内七社の世話人が集い、それぞれ祭礼を行います。

6 花き栽培ハウス ※無人の際は立ち入り不可



肥沃な大地と温暖な気候、都市部に近い立地を生かし、かつてはキャベツなど露地野菜の出荷が行われていました。昭和50年代後半からは、カーネーションやキクなど付加価値の高い花き栽培に転換。現在は大型鉄骨ハウスや花き運搬船の導入が進み、「花の島・六連島」として知られています。この辺りからの景色もお勧め。

7 農村公園



小高い場所にある、散策の合間に立ち寄れる休憩スポット。屋根付きのベンチと丸テーブルがあり、事前に用意したお弁当や軽食を楽しむのに最適。海を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごせます。すぐ近くにトイレもあり、散策途中の立ち寄りにも便利です。